

▶ 今回は前立腺がんの診断と治療法についてです



前立腺がんの確定診断

前立腺がんの確定診断は、局所麻酔にて経直腸エコーガイド下に経会陰前立腺針生検※1を行い、病理組織学的検査により診断されます。がんが見つかった場合には、CT、MRI、骨シンチグラフィ※2などを用いてがんの進行度を診断し、病理検査で診断されたがんの悪性度と患者さんの年齢や合併症、希望などを総合的に加味して治療方針を決定することになります。

治療の3本柱

治療の3本柱として、手術療法、放射線療法、ホルモン療法※3があります。転移のないがんに関しては、若年の患者さんは手術治療を中心に、高齢の患者さんはホルモン治療を中心に治療を組み立てますが、3つの治療法をさまざまに組み合わせて治療を行う場合もあります。転移のあるがんに対しては、ホルモン治療を中心に治療を行っていきます。

診断結果次第で経過観察することも

前立腺がんの中には生涯にわたり生命予後に悪影響を与えない潜在がん(ラテントがん)が少なからずあり、その発生率は加齢に伴い上昇します。PSA(前立腺特異抗原)高値を契機に診断された前立腺がんの中にも、一定程度の割合で高分化かつ小病巣の前立腺がんが含まれ、これらに対する過剰治療の懸念があるため、無治療で経過観察(3ヵ月ごとのPSA検査と1年後の再生検)する治療選択肢(PSA監視療法)もあります。

※1 肛門から専用の器具を入れて前立腺の超音波検査(経直腸エコーガイド)をし、病変を採取して顕微鏡で調べる検査

※2 がんの骨転移や微細骨折など、安全なレベルの放射性物質を使って全身の骨の様子を調べる検査

※3 男性ホルモンの分泌や働きをコントロールすることで、がん細胞の増殖を抑える治療